

# 官民連携「子育て」未来像

「皆が幸せに、子を産み育てやすい社会」の実現を目指す自治体・J・C・企業が共に立ち上がった。全国知事会とJ・Cによる「ベビーファースト共同宣言」のその先を目指し、全国知事会会長と語り合う。

子は社会で育てるもの。  
日本の伝統を呼び覚ませよう

中島 先日の京都会議では、貴重なお話をありがとうございました。平井 こちらこそ本日は、鳥取までようこそお越しくださいました。中島 J・Cでは子供を産み育てやすい社会の実現を目指し、2021年度から「ベビーファースト」運動を推進しています。現在、30以上の自治体、160超の企業が参加してくださっています。さらに活動を盛り上げていきたいと思っています。

さんとのご縁を大切に、ぜひとも力を合わせていきたいです。青年会議所は「J・C」、それに私と私どもは知事ですから「C」に、ほぼ同じような存在ではないかと勝手に共感しています(笑)。

留まらず、国への働きかけなど、重なる部分も多いと感じています。中島 光栄です。今日は「宣言」の先「運動」をどうつくっていくか、ご相談させてください。平井 最近つくづく思うのです。日本社会は今後どうなるのか」と。

## ゲスト——平井伸治

全国知事会会長、鳥取県知事



くした悲しみ、親を亡くした孫への深い心持は千年の時を超え、私たちの心に直接的に訴えかけてきます。今、痛ましい戦争のニュースが日々飛び込んできます。子を亡くした親、親を亡くした子の姿は何よりもつらく悲しいものです。中島 本場にそうですね……。

京都会議では、山上信良もご紹介くださいました。平井 「瓜食めば子供思ほゆ 粟食めばまして偲はゆ いづくより来りしものぞ 眼交にもとなかかりて安眠し寝さぬ」

瓜を食べても粟を食べても、残してきた子供が思われる。子供たちはいつたかと思われ、どうした縁で来た存在なのか……。中島 日本人がいかに子供たちを大切に育んできたかが分かります。

中島 わが子同様、他の子も慈しんでいた様子が伝わってきますね。平井 そもそも日本には「親」を示す言葉が昔から多くありました。「生みの親以外にも」「乳母親」「鳥帽子親」「仲人親」など、様々な形で社会が一人の子の成長に関与し、大切に育てるのが、我が国の伝統的

な在り方だったのです。中島 その精神を再び取り戻し、広げていこう。それが「ベビーファースト共同宣言」の核ですね。

### 子育てへの投資成果は、将来でこそ明らかに

平井 J・Cはまさに「子育て」のど真ん中世代。かつ社会機運を盛り上げていける能力溢れる方々です。皆さんが積極的に動かれることで、「社会で子供を育てる」発想を世の中に広めてほしい。もちろん我々自治体も行政の面から実践してい

きます。双方でベクトルを合わせ連携していきたいですね。

中島 実際に全国知事会は今、どのような考えをお持ちですか。

平井 滋賀県の三日月大造知事がプロジェクトリーダーとして、子供応援プロジェクトを推進中です。また、J・C1日本第47代会頭も務められた富山県の新田八朗知事も含め、有志の知事メンバー21人が「日本創生のための将来世代応援知事同盟」を形成しています。目指すのは、「人口減少に歯止めをかけ、地方への人の流れをつくり、東京一極集中型社会を変えること」。

現役世代の私たちがおり、その次の世代がいる。さらにその先には第三世代がいます。私たちは孫の代まで安心して暮らせる環境をつくって初めて、「地域を守れた」と言うことができます。もちろん、たった一人の懸念だけでは実現しません。全国47都道府県知事が協力し、かつ地域を代表するJ・Cさんと手を取り合うことが大きな意味を持つと思います。中島 経済も重要。現在の社会課題の解決も大切ですが、何よりも子供は未来社会の基盤です。だから子供はもちろん、彼らを産み育てる親たちへの支援が重要です。平井 「ことおきて 誰をあれと思ふらむ 子はまさるらむ 子はまさりけり」

これは鳥取県で生まれたと伝説が残る和泉式部の句です。子を亡

そのために積極的に民間企業にも働きかけ、「中小企業のためのイクボスガイディング」や「育児取得に向けた意向確認用ガイドブック」を発行したり、子育て支援施策を紹介したりしています。もちろん人への提言活動なども行っています。中島 すでに非常に実践的な活動をされているのです。

平井 各自治体でベストプラクティスを模索しつつ横の連携も図り、かつ国に対し声を上げて、未来社会を描いていきたいのです。中島 現在、日本政府は「子ども家庭庁」の設置を目指しています。平井 大切なのは単に役所をつくることではなく、そこに魂が込められるか、実質的な改革につながるかどうかです。

日本社会の現状を見れば、子供を取り巻く環境は、決して最良ではありません。保育園不足による待機児童問題、子供の貧困や女性の社会進出の難しさもあります。数字を見て、現状の日本の子育て関連予算はGDP比で1.56%と、極めて低い数字です。少子化対策が日本より実を結んでいる北欧やフランスは約3%です。日

# 社会が子供の「親」代わりになろう

本の倍もお金をつぎ込んでおり、予算規模は結果に直結しています。中島 掛け声や目標だけでなく、実のある対策が必要なので、平井 それと併せて大切なのが教育費です。日本の初等・高等教育に対する公的支出のGDP比は4.0%。比較可能なOECD加盟国37カ国中、なんと30位です。

ちなみにトップのノルウェーは6.6%。日本は所得格差がそのまま教育格差につながり、「子育てにお金がかかる国」になってしまっているのが現状です。そもそも「子化対策」は、数ある政策の中でも、投資の費用対効果が極めて見えない分野です。短期的な効果は見えにくいからこそ、腰を据えての長期的ビジョンが大切になってくるのです。

中島 たしかに子育て・教育分野は、一朝一夕で成果は出ません。平井 もっとも最近では日本も重い腰を上げて、ようやく保育料無償化なども進んできました。さらに後押しをしていきたいですね。

地方ならではの戦略とは。小さく始め、大きく広げる

平井 ただ、「地方」ならではの強みもあるんですよ。大都市や国家単位で子供に予算をつけようとすると、規模が大きすぎて簡単にいきませんが、人口の少ない地方なら、試せることも多いんです。

例えば、鳥取県では2014年から、保育料の無償化を段階的に実践してきました。まずは深刻な過疎と少子化に悩む中山間地域で、全ての子供の保育料無償化を実施。その後、他の地域でも第3子以降の無償化に広げていったんです。中島 国に先駆けて挑戦されたのですね。その結果が、鳥取県の移住者増加にみこに表れています。平井 15年以降、毎年平均約2000人が鳥取県に移住しています。それも子供を持つ若い世帯が多いのが特徴です。嬉しいですね。中島 自治体の挑戦と結果が結びついた、素晴らしい事例ですね。

平井 中山間地域の保育料無償化

Shinji HIRAI



は若桜町という町から始まりましたが、実は初年度予算は900万円だったんですよ。これは考えてみれば、人件費2人分程度です。つまり最初から全国規模でやろうとすると「不可能」と思われる政策も、子供数が少なく限界効用が高い地方ならば、試せることはたくさんあるはずなんです。中島 小さく始めて、大きく広げる発想を持つというんですね。平井 その通りです。その他、鳥取県では産後ケア無償化も始めました。「産後の肥立ち」という言葉もあるくらい、出産後の母体は

1961年、東京都千代田区田生生まれ。東京大学法学部卒業後、自治省(現・総務省)入省。1995年渡米し、翌年カリフォルニア大学バークレー校政府制度研究所客員研究員に。99年鳥取県庁長官に就任。2001年鳥取県副知事に就任。07年より鳥取県知事。21年9月、全国知事会の会長に就任。

疲弊しています。

そこでしっかりと休めるかどうか、その後の育児や家庭生活の質にも大きく影響してしまうのです。また、家庭の負担軽減のために、医療費助成も高卒卒業まで拡充しました。

中島 非常に尖った政策を次々に進めていらっしゃいます。

ある意味、少子化の波は地方でこそ肌感覚でヒシヒシと感じるわけですが、実情に即した政策を試すことができれば、平井 それで成功すれば、今度は他県に横展開、あるいは国に提言

※限界効用二財(モノやサービス)を1単位追加して消費することによって得られる効用(満足度)の大きさ。

## 会 頭 対 談

平井 伸治 × 中島 士

# JICが社会と子をつなぐ「ハブ」となる

し全国に広げることができません。ただ、忘れてはならないのは行政に丸投げでは、子供は増えないということです。「社会」全体の意識が変わらなければ、「子供を育てたい」国にはなりません。だって「子育て」って本当に大変ですよ。産むも育てるも、努力とお金がかかる。地域が積極的に対応して、その負担を減らしていきたくないじゃないですか。そこでJICさんの出番です。

中島 国単位、県単位、地域単位最後は町内会単位といったミニマムな「社会」での協力が不可欠だと、私も感じています。

JICは単年度制ですが、中長期的視野で「まちづくり」に本気で関わる組織です。町内会さんや地元の方々ともパートナーシップを築き上げて、「地域の親」として積極的に関与していきたいですね。

平井 当の子供たちにとって、非常に良い作用を生むはずですよ。人間の脳の前頭葉は「社会脳」と呼ばれる働きをしています。ホモサピエンスが他の動物たちと決定的に異なるのは、言語を持ち他者とコミュニケーションを築くことです。この「社会脳」は主に赤ん坊から学童期にかけて、猛烈に成長するらしいんです。そこで大切になるのが、「多様な人々との関わり」です。両親、兄弟姉妹、親戚、地域の年上・年下の交友関係、あるいは商店街のおじさん、おばさん、高齢者など……。こうした多様な世界は、まさに町内会の世界です。

ただ残念ながら、各地の地域社会が機能不全に陥りかけています。だからこそJICさんが果たす役割は大きいはずなんです。中島 JICは、学校等にはできない分野の子供育成にも取り組んでいます。平井 そうした取り組みも子供たちの成長を支えているはずですよ。中島 孤立しがちな家庭と子供、地域社会、それをつなげる「ハブ」機能としてJICがあるんですね。多くの「親代わり」が地域に存在することは、「社会で子供を育てる」

Tsuchi NAKASHIMA



最初の一步になりますね。最後に全国のメンバーにメッセージをお願いします。平井 JICは非常に偉大な組織です。社会の中核を担う方々が、積極的に社会貢献に乗り出し、互いに切磋琢磨しつつ活動されているのですから。しかもその活動は国を超え、世界とつながっています。民主主義・人権・子育てという人の一生に関わる大切なミッションに挑戦されています。

1982年、大分県大分市生まれ。中央大学卒業。ジェイリース株式会社取締役副社長。2011年に一般社団法人大分青年会議所へ入会。2022年公益社団法人日本青年会議所第71代会頭を務める。

を、共に目指していきたい。決して悲観ばかりではないと思うんです。どんな環境下でも子供は笑顔はあるし、その笑顔に救われる大人も大勢います。未来への希望、信念、可能性を体現しているのがベビーです。「雪解けて村いっばいの子供かな。」これは小林一茶の句ですが、にぎやかな笑い声が溢れる様子が、目に浮かんでききますよね。子供たちだけに、キッド幸せになる(笑)。そう心より願ってやみません。中島 大きな学びと、希望をありがとうございます!